

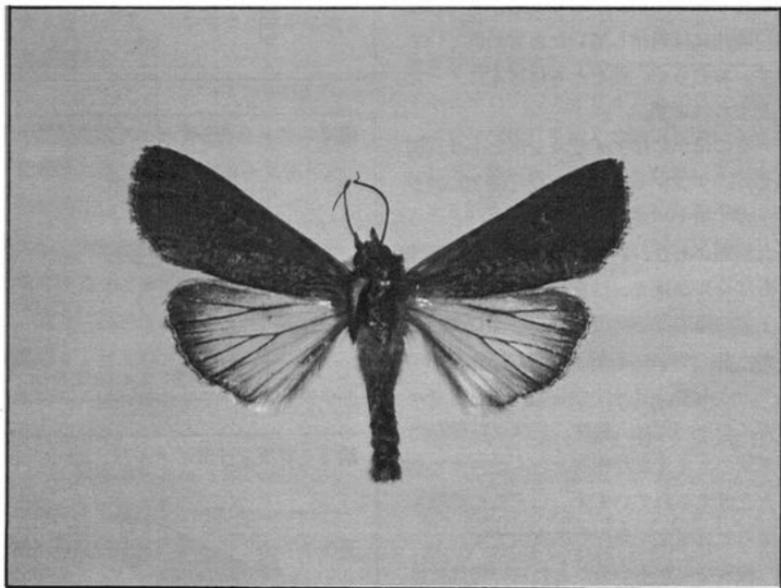
# 市川自然博物館

# 10・11月号

(通巻第58号)

# だより

いち  
かわの  IV 外国から  
やってきた蛾



△ニセタマナヤガ(オス)。市川市内に最近、帰化した蛾です。  
季節に関係なく、一年中、発生しています。

# いちかわの蛾Ⅳ 外国から やってきた蛾

人間の社会活動が活発になり、外国との貿易が盛んになるにつれて、本来、日本には生息していないはずの昆虫が日本に住み着くようになりました。いわゆる帰化昆虫です。蛾の一種であるアメリカシロヒトリは、その代表的な存在としてよく知られています。今回は、帰化昆虫という観点で何種類の蛾をご紹介します。

## ●古くに帰化した蛾

日本に帰化した年代が最も古いのは、イッテンオオメイガ（サンカメイチュウ、図1）という種類です。稲の害虫（大害虫）なので決して歓迎されているわけではありませんが、少なくとも、すでに江戸時代には帰化していたと言われてます。おそらく、稲とともに日本に入ったと思われます。

そのほかにはアメリカシロヒトリ（図2）、サツマイモノメイガ（図3）、ジャガイモキバガ（ジャガイモガ）といった種類があり、いずれも戦中から戦後間もなくにかけて、つまり、今から50年以上前の昭和20年前後に帰化しました。このうち、サツマイモノメイガはサツマイモとともに、アメリカシロヒトリとジャガイモキバガは、戦後、日本に駐留した米軍のさまざまな物資とともに日本にきたと考えられています。いずれの種類も、国内では樹木や農作物の害虫です。

検疫などが不十分だった古い時代には、もっと多くの蛾が日本に入り込んだと思われます。しかし、気温や餌などの条件が国内の環境では不十分であったため、定着できなかったと想像されます。

図1 イッテンオオメイガ



開張：2.1 cm

図2 アメリカシロヒトリ（斑点型）



開張：2.4 ~ 2.8 cm

図3 サツマイモノメイガ



開張：2.9 cm

### ●最近、帰化した種類

近年の目ざましい物流の発達には、新たな種類の帰化を生み出しました。検疫などの対策では完全には防ぎきれないよう、シバツトガ(図4)、ナスノメイガ、レイシヒメハマキ、ガマキンウワバ、マンゴーフサヤガといった種類や、市川市内でも記録があるヒロヘリアオイラガ(図5)、ニセタマナヤガ(図6)などが新たに帰化しました。

これらの種類は、「ナス」「レイシ」「マンゴー」といった名が冠されているように、その多くが輸入植物にともなって日本にやって来ました。南北に長い日本列島の場合、例えば九州や沖縄に帰化した種類が関東や東北などでも生息できるということは稀ですが、それでも種類によっては、高速化した全国ネットの流通網に乗って急速に分布を広げることがあるようです。港の周辺から徐々に分布を広げていくといった、かつての広がり方とはだいぶ様相が違ふようです。

ところで、帰化種が分布を広げると、それにとまって在来種が衰退するといったことがよく言われます。在来種のタンポポと帰化種のタンポポ、メダカとカダヤシなどがよく例にあげられます。在来種と帰化種が本当にそういった排他的な関係にあるのかについては異論もあると思いますが、少なくとも蛾について言えば、帰化種の増加と在来種の減少とが相関的に見られたことは、これまでありません。それは帰化種が、農地や街路樹といった人為的な環境をおもな生息場所としているからなのかもしれません。

図4 シバツトガ



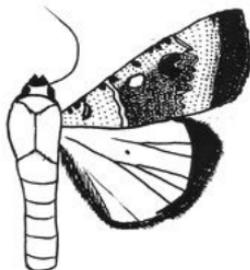
開張: 1.7 ~ 2.0 cm

図5 ヒロヘリアオイラガ



開張: 3.9 ~ 4.4 cm

図6 ニセタマナヤガ



開張: 4.0 cm

## ●市川市での事例

市川市内での事例を見ると、大きく3つのタイプがあることがわかります。すなわち、いま現在増加している種類、増加の後、減少に転じている種類、一時的に見られたものの、結局定着しなかった種類です。

いま現在増加している種類としては、ヒロヘリアオイラガとニセタマナヤガをあげることができます。いずれも、比較的最近、帰化した種類です。

ヒロヘリアオイラガの市内での初記録は平成元年です。樹木に発生した幼虫によって、市内での生息が確認されました。その後は、毎年9月～10月頃にサクラなどの街路樹で発生が見られ、市内全体では増加の傾向にあるようです。この蛾はいわゆるイラガの仲間で、幼虫には毒刺があります。そのため、幼虫に触れるとかなりひどくかぶれます。ですから、衛生害虫という視点でも注目する必要があります。

ニセタマナヤガは、平成6年に、蛾の夜間調査（燈火採集）時に飛来した成虫によって、市内での生息が確認されました。その後市内でも定着し、数も増加しているようです。

これらは、市内に定着してまだ間もないので、今後、増加傾向が続くのか、あるいは減少に転じるのか、減少するとしたらそれは防除によるものなのか、自然に減少するものなのか、そういった点はまだ全くの未知数です。

2つめのタイプ、増加の後、減少に転じた種類とは、すなわちアメリカシロヒトリのことで、この蛾は、昭和20年に

東京都で発生した幼虫によってはじめて国内での生息が確認され、そこから羽化した成虫が周辺に分散し、次第に広まってきました。市川市内では昭和23年に初めて生息が確認されてから、毎年のように街路樹などで幼虫の発生が繰り返されています。

一時の増加傾向にくらべると、近年、アメリカシロヒトリの発生は沈静化し、むしろ減少傾向にあるようにさえ感じられます。これは国レベルで薬剤散布などの駆除対策が実施されたことが大きな要因です。つまり、アメリカシロヒトリは国内へ帰化してから各地で大発生したものの、事前の予防や駆除といった人為的な要因によって現在は発生が抑えられているわけです。仮に各種の対策が止められた場合に再び大発生するのかわかりませんが、少なくともいま現在においては、サクラなどの植栽木ではモンクロシャチホコやオビカレハといった在来種の幼虫の方が多く発生するようになりました。

一時的に見られたものの、結局定着しなかった種類としては、ワタアカミムシガがあげられます。市川市内では昭和30年に初めて記録されましたが、その後はまったく確認されていません。名前のおり幼虫はワタやオクラといったアオイ科植物を餌としています。発見のきっかけとなったワタの産業的な栽培が市内や近隣の地域で行われなかったことが定着まで至らなかった原因かもしれません。この例のように植物とともに入り込んだものの定着できずに消えてしまった蛾は、じつは相当数にのぼると思われます。



# 街かど自然探訪

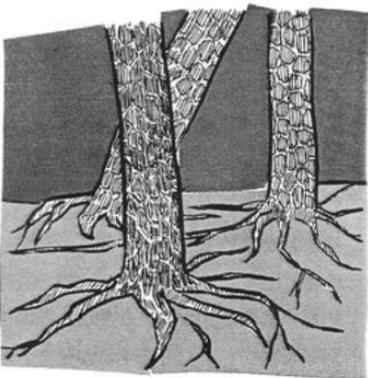
おじゃまします!

ひらた

平田・平田緑地のクロマツ

中山から市川にかけて、市川砂洲と呼ばれる細長い砂地の土地があります。かつては敷地の境界や、住宅や畑を取り囲むたくさんのクロマツが植えられていました。住宅が密集してくるとクロマツは減り、現在は神社の境内や道沿いに点在しています。

京成線菅野駅の近くにある平田緑地は、直径が50cmを越えるクロマツが幾本もまともって生えている静かな林です。ここは、市川の木クロマツとクロマツの生える風景を楽しむことができる場所です。



## RDB レッドデータブック

掲載種紹介



### ウラギク



干潟など、塩分がある湿地に生育します。埋め立て地などに一時的に大群落を形成することがありますが、市内の自生地である江戸川放水路ではヨシに混じって生えているのが普通です。

いわゆる野菊の一種で、花は野菊のなかでも美しい部類に属します。カニやトビハゼがいる干潟と美しい野菊との、ややミスマッチな取り合わせが印象的です。干潟の埋め立てなどが影響して、各地で減少していると思われます。

分類 種子植物 キク科  
ランク 絶滅危惧Ⅱ

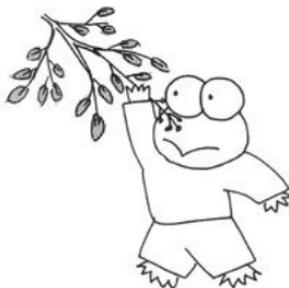
5月12日、  
くすのきが開花しました。



美しい樹形と瑞々しい緑が売り物のクスノキにも、ちゃんと花が咲きます。といっても小さな小さな花で（大きさ5mmくらい）、しかも葉っぱの緑に埋もれてしまうので、なかなか気がつきません。

街路樹のクスノキは、木自体が小さいので花が咲いても、ちょぼちょぼといった感じです。でも、例えば八幡の八幡宮の境内にあるクスノキなどは、満開！といった感じで多くの花を咲かせます。

(情報提供：水垣麻理子さん)



ただいま

**ホームページ発信中!**

Let's access!!

[ <http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/> ]

### 市川の野生生物 電子図鑑

自然博物館のホームページでは、10のテーマによる電子図鑑を掲載しています。各テーマは、市内の生物や自然環境を様々な角度から取り上げたもので、それぞれ10カットの写真と解説によって構成されています（一部、音声付き）。

画像を扱っているため頻繁な更新がむずかしいという欠点がありますが、一方で「百聞は一見に如かず」。カラー写真を手軽に掲載できるインターネットならではの図鑑になっています。

#### ◆ 市川の野生生物 電子図鑑 ◆

当館の学芸員が観察した野生生物などを写真アルバムでご紹介します。

10テーマ100点を掲載中です。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 第1章「市内の貴重な植物」   | 第6章「江戸川のさかな」    |
| 第2章「市内の貴重な動物」   | 第7章「声(音)を出す生き物」 |
| 第3章「江戸川放水路の生物」  | 第8章「都会のカラス」     |
| 第4章「大町自然観察園の生物」 | 第9章「市川の春・夏」     |
| 第5章「身近な植物」      | 第10章「市川の秋・冬」    |

#### 利用上のお願い

ここに掲載されている写真は、調査・研究や学習などを目的に個人がご利用になる場合はご自由に利用下さい。

但し、著作権は自然に帰属しますので、画像の改ざんや無断目的でのご利用はご遠慮下さい。

問合せ： 市川市自然博物館  
電話： 047-339-0477

〔電子図鑑 テーマ一覧〕※概要は次号にて

わたしの  
**観察ノート**  
No.40

◆自然観察園より

- ・サンコウチョウのメス（もしくは若いオス）を見ました(9/4)。

宮橋美弥子（自然博物館）

- ・「鳴く虫の女王」と呼ばれるカンタンが鳴いていました。場所は観賞植物園（温室）の前の湿地で、毎年、ここで聞くことができます(9/14)。

金子謙一（自然博物館）

◆市川北高校付近より

- ・夜8時40分頃、エンマコオロギの鳴き声を聞きました(8/9)。

宮内博至さん（八幡在住）

◆市川東高校付近より

- ・調節池に飛来したコガモを見ました。今年の初認です(9/12)。

◆大柏川調節池より

- ・モズの高鳴きを聞きました(9/12)。

以上 石井信義さん（菅野在住）

◆真間3丁目より

- ・電線にエゾビタキが2羽とまっていた(9/13)。

根本貴久さん（菅野在住）

◆東国分1丁目より

- ・春木川沿いの道路でホンダヌキの死体を見つけました。交通事故にあって間もないものようです(8/13)。

宮内博至さん

◆小塚山市民の森より

- ・キビタキのメス1羽とサンコウチョウのメス1羽が追い掛けっこをしていました(9/12)。

- ・アカゲラのメスを見ました。キョッキョッと鳴きながら木から木へと移動していました。もう山から下りてきたのでしょうか(9/15)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・エノキで休むフクロウ1羽を見ました(8/30)。

◆菅野2丁目より

- ・上空を11羽のアオサギがみごとな編隊（くさび形）を組んで南下していきました。数分後、6羽のアマツバメが次々と低空で渡っていきました(9/26)。

以上 根本貴久さん

◆江戸川放水路より

- ・台風のため8/30夜に行徳可動堰が開けられ、9/2の昼前に閉められました。堰の下流側に流された淡水魚が堰周辺に群れていました。コイ、ハクレンのほか、ボラ幼魚の群れ、ニゴイ幼魚の群れが目につきました。ヘラブナやワタカ、アユの姿も見られました。

金子謙一

◎ぐずついた日ばかりで、ついに梅雨明け宣言が見送られてしまいました。



# 博物館利用あんない



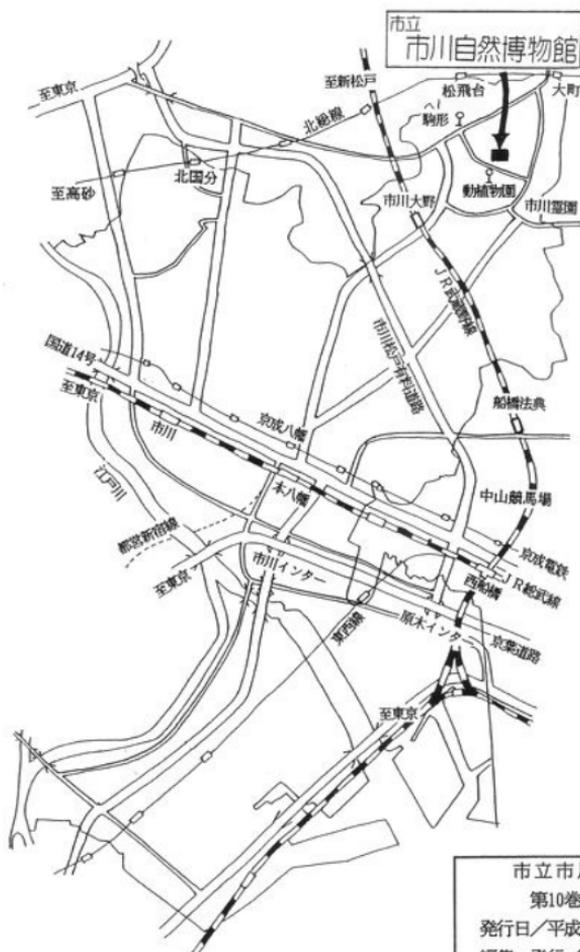
## ●開館時間

午前9時30分～午後4時30分

## ●休館日

毎週月曜日・年末年始

(ただし月曜が休日の場合は翌日)



## ●交通

● JR本八幡駅から

京成バス

\* 『動植物園』行き  
終点下車

\* 『大町駅』行き  
「駒形」下車  
徒歩15分

※どちらのバスも、  
京成線  
「京成八幡」駅前  
JR武蔵野線  
「市川大野」駅前に  
停車します。

● 車の場合

動植物園入口にある  
駐車場（普通車1台  
500円）を、ご利用  
ください。

市立市川自然博物館だより

第10巻 4号 (通巻第58号)

発行日/平成11年3月31日

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272-0801 千葉県市川市大町 284番地

☎ 047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>